

ありがたいまいにち

小学三年 加来 慧子

「長さきに行こう。」とお父さんが言いました。今年は、戦後80年になる事や、ひいおじいちゃんが戦争に行つていた事を知りました。長さき原ばくしりょう館に行き、あん内人の山さきさんにお話を聞きました。始めにあつたのは、11時2分で時間が止まつていた柱時計でした。原ばくの時間を指したまま、止まつっていました。

次に、原ばくの田標地点が、長さきではなく、小くらだつた」とを知りました。もし、原ばくが小くらに落ちていたら、ひいおばあちゃんや、ひいおじいちゃんはなくなつていたかもしね。そうしたら、わたしさは、生まれていなかつたかもしね。そうしたら、わたしは、生まれていなかつたんと思いました。

八月九日に、長さきの平和式でんで、長さき市長さんがお話をされました。そのお話の中で、木ギレやガラスがつきあつた人、首が半分切れた赤ちゃんをだきしめたお母さんの事など、当時の様子を話していたのが、しりょう館の写真を見た後だったので、すく心にのこりました。

原ばくは、その時だけでなく、原ばくが落ちた後も、がんや白血病

など色々な後いしょで、ひばく者を苦しめた。と、お家や学校もこれたり、さつきまでとなりにいたお友だちがなくなつてしまつたり、長さきの人々のまいにちを全てこわしてしまいました。

今、わたしがまいにち「はん」を食べたり出来るのは、あたりまえではなく、ありがたい事だと思います。そして、世界中には、たくさんのかく兵器があることを知り、ばくだんがこわく、おそろしくなつてきました。わたしはいつもこうねがつています。

「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ、
ノーモアウォー、ノーモアヒバクシヤ」